

1. 活動の概要

7月5日(火)、飯南町立頓原小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、小学校周辺の文化財について町内で出土した実物を見ながら説明を受けました。志津見ダムを造る前に発掘した遺跡から発見された縄文土器には時代の呼び方の由来となった、縄文で飾られていることを聞きました。

それから埋蔵文化財調査センターの職員が古代の鏡について説明をしました。鏡のレプリカをみて、顔が映ることを確認したり、意外と大きいことに感心していました。

そして、いよいよ「鏡作り」に取り掛かりました。鍋で溶かした低融点金属を鋳型に流し、できた鏡を紙やすりや磨き粉を使って磨くとピカピカに仕上がりがりました。



町内の遺跡について学びました



頑張って磨きました

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

★一番心に残った事は？

- ・飯南町にも古墳がたくさんあって、そんな遠い話じゃないとわかった。
- ・飯南町の古墳多さ。
- ・鏡を磨いたのが楽しかったので心に残りました。

★もっと知りたい事やほかに体験してみたいこと

- ・銅鐸作りをしてみたい。
- ・古墳の中の人、はじめ服を着ていたのか。
- ・大せん古墳はなんで前方後円墳なのか。

2) 担任の先生から…

- 古墳時代の授業をやったばかりで良いタイミングで学びが深まった。
- 飯南町の土器の話で興味、関心がぐっと高まったように思う。
- 本物の土器など、リアルなものに触れられる体験はほんとうに素晴らしいと思う。

3) 埋文センターから

遺跡地図によって学校の周辺に多くの遺跡があることを知った児童のみなさんは驚きの声を上げていました。また実際の出土品を間近に見学して驚いたという感想が寄せられました。

鏡作りでは、慣れない作業で苦戦する児童もいましたが、頑張っって時間内に完成することができたようです。金属をとかし、型に流し込み、研磨して仕上げるという鋳造の工程を体験し、古代の鋳造品に関する理解を深めることができたのではないのでしょうか。